

茨城県 育成会だより

第 152 号

発行日 令和6年3月10日
発行 一般社団法人
茨城県手をつなぐ育成会
編集 広報委員会
事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918
セキショウ・ウェルビーイング福祉会館内
☎ 029-243-3838
FAX 029-243-3854
URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



作業の様子



作業の様子2



相談支援



朝の体操

就労と自立を目指して

あいふあーむ茨城 管理者 小沼 弘行

社会福祉法人自立奉仕会 あいふあーむ茨城は、開所15年目を迎えました。平成21年12月1日の開所当初は就労移行支援事業所として開設し、平成24年12月1日には就労継続支援B型事業を併設。現在は多機能型事業所となっています。

就労移行支援事業では、就労を希望する障がい者の方が、自立した社会生活を営むことができるよう、就労に必要な知識の習得及び能力の向上のために職業準備訓練や職場実習を行い、一般就労等の就労移行を支援しています。

また、就労継続支援B型事業では、生産活動を通して就労に向けた意識の醸成及び作業力の向上を支援するとともに、生活面の充実を支援しています。

現在は、自動車部品、流通商品、筆記用具の加工など請負作業を中心に行っており、どの作業も利用者それぞれの得意な分野を活かした分業制で行っています。

今後の目標としては、レクリエーション活動の充実や、様々な作業を効率よく丁寧に行えるよう工夫をし、一人ひとりがやりがいをもって働くことが出来るよう職員全員で支援していきたいと思っています。

連絡先：笠間市旭町346-233
電話：0296-177-8505

令和5年度県育成会茨城大会開催される

令和5年12月21日（木）ホテルレイクビュー水戸（鳳凰の間）にて令和5年度県育成会茨城大会が単位育成会の皆さんにお集まりいただき開催されました。今回の茨城大会はこれまでの形式にとらわれない形でした。

はじめに永井会長のあいさつが下記のとおりありました。



永井会長あいさつ

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、多くの皆様にご出席いただきありがとうございます。今回の茨城大会は、従来のように来賓や関係機関の皆様をお招きすることなく会員のみで開催する形をとりました。挨拶や祝辞など儀礼的な内容を縮小し、集まった会員同士が食事をしながら、今抱えているそれぞれの課題などを率直に話し合うことを主なねらいとしました。

皆さんが日頃から感じている会員の高齢化や会員数の減少、現行の福祉制度の問題点、さらにわが子の将来についての不安などを、ざっくばらんに話し合っただき、親として家族として、さらに手をつなぐ育成会として結束を深め、このような課題にひとつひとつ真剣に向き合っていくことの重要性を改めて認識する場にしたいと思っています。

本日は、皆さんからいろいろな情報やご意見をお聞きし、知的障害のある人たちが、安全で安心して暮らすことのできる社会の構築を目指す手をつなぐ育成会の活動につなげていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

続いて、活動報告「①令和5年度県育成会の主な活動状況、②地域育成会の主な活動状況」、情報交換「①全育連・関ブロの今後の大会予定等、②地域育成会の現状・課題等、③その他」、研修「令和5年度障害基礎年金学習会の進め方について」が行われ、途中昼食を挟んで、参加者からの意見交換を中心に開催されました。そして、午後2時に茨城大会を閉会しました。



意見交換

育成会長活動日記

第5回

全国大会愛媛大会で感じたこと

茨城県手をつなぐ育成会 会長 永井 立雄

令和6年1月27日・28日の二日間、愛媛県松山市で第8回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会愛媛大会が開催されました。コロナ禍で対面での開催ができない状況が続き、実に4年ぶりの通常開催とのことでしたが、全国から多くの人たちが集まり、とても有意義な大会となりました。

私は第3分科会に参加しました。テーマは「障害者理解・啓発と防災 一まさかの時にも支え合えるつながりを深める」というものでした。折しも元旦に石川県能登半島および富山県、新潟県で地震による大きな災害が発生した直後だったので講演やシンポジウムをとっても興味深く聞くことになりました。

私たちの暮らす茨城県でも東日本大震災による地震と津波、平成27年の関東・東北豪雨による洪水、さらに最近では今年の台風13号による大雨など、ここ十数年の間に大きな災害に見舞われています。そしてその都度災害対策の重要性が叫ばれてきました。

今回の分科会で特に印象に残ったことが2つありました。まず一つ目は、すべての人の心に備わっている「正常化バイアス」というメカニズムの恐ろしさです。報道機関や自治体などから今まさに迫っている危機に関する情報が伝わっても、「たいしたことはないだろう」、「そんなことは起こらないだろう」、「多分、自分は大丈夫だろう」と根拠なしに思ってしまうことで災害に対する備えを後回しにしがちです。避難行動が遅れることにより実際に命を落としてしまった方が数多くいるということです。いつ起こるかわからない災害に備えて生活に必要なものを備蓄したり、避難する場所を確認したりすることはとても重要なことだと思いました。

二つ目は、地域のつながりの大切さです。今回の能登半島地震でも、あの家に体の不自由なお年寄りがいる、あの家に重い知的障害の人がいるということを地域の人が知っていたことで速やかに救助されたというケースがあったということです。近年、自宅で高齢の親と知的障害者が暮らしているというケースも多いと思いますが、警察や消防、自衛隊が到着する前にたよりになるのは地域で共に暮らす住民だということです。日頃から地域の人たちと交流し自分たち家族のことを知ってもらうことも災害対策をしてとても大切なことなのだと強く感じました。



地域交流委員会の啓発活動について

地域交流委員会委員長 中村 正子

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したので、今年度は地域のイベントに参加をしました。11月12日に水戸市千波公園ふれあい広場で開催された「ふれあいのひろば」でパンフレット等を配布しました。

「ふれあいのひろば」とは、水戸市障害者(児)福祉団体連合会に加盟する障がい者団体が出店し、障がいのある人、ない人がともに集い交流や理解を深めようという目的で開催しています。物品販売や障がいのある皆さんの踊りの発表もあり、汗を流しながら楽しく踊っていました。ただ、あいにく肌寒い日だったので来場される方が少なかったのが残念でした。



12月9日には「ナイスハートふれあいフェスティバル」にも参加しました。当日は、ナイスハート美術展、開会式、発表会、県内の福祉事業所の物品販売もあり、会場内は賑わいがありコロナ前の様ではありませんが、大勢の来場者の方にパンフレット等を配布し、手をつなぐ育成会活動の周知・啓発を行いました。

なかなか思うような活動ができていない現状ですが、単位育成会も減少するなか課題も見えてきました。委員会だけでは解決できないこともあるので、皆様のご協力をいただきながら活動していきたいと思えます。



第8回全育連全国大会愛媛大会について

事務局長 村田 裕二

1月27日(土)～28日(日)に愛媛県県民文化会館で全育連全国大会が開催され、当会からは永井会長と私が参加しました。

今大会のスローガンは「みとめ愛 ささえ愛 共に生きる社会をめざして」とされ、愛媛県の愛を用いたセンスある大会スローガンだと感じました。

第1日目は、分科会が行われ、私は第3分科会「障がい者理解・啓発と防災」に参加させていただきました。

分科会では、2名の方の基調講演の後、シンポジストのそれぞれの立場からの事例や取組が紹介され、障害者が自分の特性を生かしながら地域で生活していると、芸術の分野などでは本人と支援者(地域住民)の役割が入れ替わることも起こり得ること、また、まさかの時には能登半島地震の状況も踏まえ、「ご近所力」が重要でそのネットワーク(信頼の絆)づくりが大変重要であり、その前提には「まず地域で(本人を)知ってもらい、理解してもらうこと」が必要だと説かれました。



記念講演

また、第2日目は、大会式典や記念講演などが行われました。なお、式典では、当会理事の吉川佳代子さんが全育連会長表彰を受賞されました。ご功績に感謝するとともに、今後とも手をつなぐ育成会活動にお力添えをお願いいたします。



第3分科会



大会式典

令和5年度本人交流会について

本人活動委員会委員長 清水 学

令和2年からの3年間に及ぶ新型コロナの緊急事態は、昨年5月には新型コロナが5類に移行したことで、外出制限などの制約が大きく緩和され、中止となったイベント活動が再開し令和5年11月26日（日）セキショウ・ウェルビーイング福祉会館で、令和5年度本人交流会を4年ぶりに開催しました。

今回初めて水戸高等特別支援学校と結城特別支援学校の高等部生参加をふくむ合計31名で、「ひとりだち2021年改訂版」を使用し、テーマを第1分科会「健康・生活」、第2分科会「お金・トラブル」、第3分科会「仕事・人間関係」と分けて、参加者同士で話し合ってくれました。

今の特別支援学校の高等部生が参加して、私も自立などの話を聞いたり、意見を出してくれて、とてもいい勉強になりました。

これからも引き続き、役員や支援者の皆さんに助けてもらいながら、楽しい交流会の企画をしたいと思っています。



開会式



第1分科会



第2分科会



第3分科会



発表会

特別支援学校の今

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立水戸飯富特別支援学校（水戸市）

「明日が楽しみになる学校」

水戸市飯富地区は、この地方で最も古いとされる安戸星古墳や大井神社があり、水戸の始まりとされています。そのような歴史ある地に立つ本校は、昭和60年4月に開校し、来年度には創立40周年を迎えることとなります。

今年度は、小学部113名・中学部71名・高等部78名の計262名の児童生徒が在籍（12月現在）し、児童生徒や保護者、教職員、さらには地域の方々が「明日が楽しみになる学校」となるよう、学習活動に取り組んでいます。今回は、新型コロナ5類移行後、徐々に活動が再開されてきた各部の交流活動について紹介します。

○小学部（茨城大学との交流）

小学部1・2年生は、茨城大学の1・2年の学生（教育学部特別支援教育コース）と交流を行っています。将来特別支援学校の先生を目指す学生の皆さんが準備してくれる楽しいダンスやクイズで、毎回盛り上がっています。

○小学部（飯富小学校との交流）

小学部3・4年生は、飯富小学校の3・4年生と交流を行っています。今年度はオンラインで実施し、学校紹介や○×クイズでお互いの学校のことを発表することができました。

○中学部（国田義務教育学校との交流）

中学部1年生は、国田義務教育学校7年生と交流を行っています。今年度は、自己紹介やお互いの校歌の合唱、そして障害者スポーツの一つであるボッチャを一緒に楽しみ、お互いの良さを理解する活動ができました。

○高等部（地域交流）

高等部1年生は、地域交流の一環として、飯富市民センターの清掃活動を行いました。社会の一員として地域に貢献するとともに、将来の職業生活に繋がる貴重な経験の場となっています。



小学部（茨城大学との交流）



小学部（飯富小学校との交流）



中学部（国田義務教育学校との交流）



高等部（地域交流）

単位育成会の活動スナップ



かすみがうら市
手をつなぐ育成会



石岡市
手をつなぐ育成会野ばらの会



境町
心身障害児者父母の会



水戸手をつなぐ育成会



稲敷市手をつなぐ育成会

第8回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会愛媛大会

令和6年1月27日(土)～28日(日) 愛媛県県民文化会館

全国手をつなぐ育成会連合会会長表彰 吉川 佳代子(茨城県手をつなぐ育成会 理事)

令和6年度主要行事予定表

月	日(曜日)	行事予定
4月	16日(火)	第1回総務委員会(小研修室A)
5月	12日(日)	茨城県障害者スポーツ大会 (フライングディスク)
	17日(金)	第1回理事会(中研修室)
	18日(土)	茨城県障害者スポーツ大会(卓球)
	19日(日)	茨城県障害者スポーツ大会 (ポウリング)
	25日(土)	茨城県障害者スポーツ大会(水泳)
	26日(日)	茨城県障害者スポーツ大会 (開会式、陸上競技)

月	日(曜日)	行事予定
6月	14日(金)	定時総会(大研修室)
		関プロ連絡協議会代表者会議 (オンライン)
7月	5日(金)	第2回総務委員会(小研修室A)
	8日(月)	育成会だより第153号
	9日(火)	第1回知的障害者相談員研修会 (大研修室)
		第2回理事会

編集後記

広報委員会では、開催の前の隙間時間に各委員が各地域から持ち寄った情報の交換をしています。ある時、ある委員が「このような情報交換のネタを育成会だよりの記事にしたら、会員の皆さんは喜ぶんだろうな!」とつぶやいていました。

まさに、このような情報が重要で、「各地域での取り組みを所属している手をつなぐ育成会でも活動できるといいんだけどな。」と思ったひとコマでした。

水戸手をつなぐ育成会 田口 美博

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援 ●就労に関する相談支援 ●権利擁護に関する相談支援

の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償 ※プランによって補償します

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金 ※プランによって補償します

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事中事故対応費用補償 ※プランによって補償します

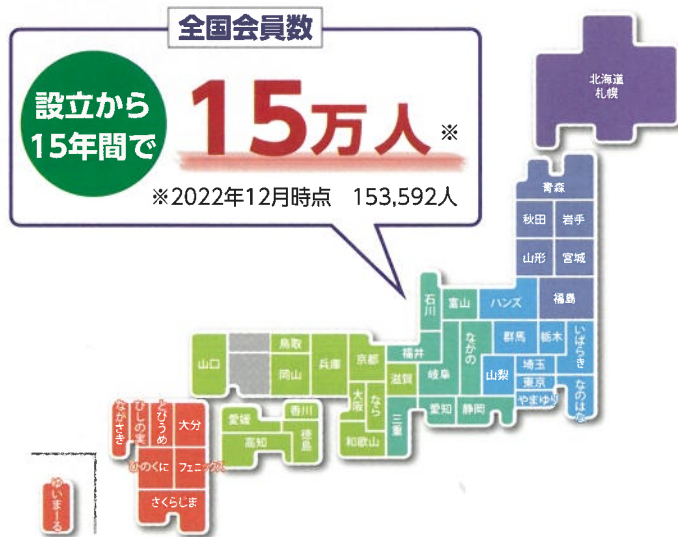
※上記は概要です。詳細は下記までお問い合わせください。

●生活サポート総合補償制度の主な特長●

- ▶入院給付金は既往症の病気、てんかんも補償。
- ▶全国の団体を通じてのご加入のため、多数割引が適用され、個人加入の場合に比べて保険料が割安です。
- ▶取扱代理店は、知的障がい児者や自閉症児者への保険の販売において、30年以上の実績があります。

生活サポート総合補償制度は…

全国で約15万人のみなさまに
ご利用いただいている補償制度です。



AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、
職業従事中事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

いばらき障害者生活サポート協会
〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地
茨城県総合福祉会館1階
一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会内
TEL: 029-244-9701 FAX: 029-243-4429
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)